

Bauma2016 開催

世界三大建設機械展示会（ドイツの Bauma、フランスの INTERMAT、アメリカの CONEXPO）の1つである「Bauma2016」が、4月11日から17日の1週間に渡り、前回同様ドイツ・ミュンヘン見本市会場で開催されました。今回は、出展社及び出展国 3423 社/58 カ国、展示面積 570,000m²、来場者数 58 万人であり、前回開催の Bauma2013（Bauma2013：3420 社/57 カ国、555,000m²、57 万人）に比べ微増でした。昨年開催されたフランス・パリの INTERMAT2015 では、規模が減少傾向であった事と比べても、やはり Bauma は世界トップの展示会でした。

締固め機械全般に着目すると、Tier4i・Tier4Final の開発完了やシングルドラム系の 12 トン超、競合各社コンバインド系のラインナップ増加、4 トン系のロール幅拡大といった傾向が目立ち、電動モータを利用した動力アシスト機構を持つハイブリッド振動ローラが製品として出展され、注目を浴びていました。

また、ドイツ出張中に施工現場見学の間にもありましたので紹介します。現場はドイツの高速道路アウトバーン傍にある農道でした。表層：アスファルト 5cm、下層：アスファルト 8cm、路盤：砕石で型枠なしで施工していました。この現場では、「サイドカッター*1」と「クラブステア*2」を使用して施工を行っており、非常に貴重な経験をする事ができました。

※1：サイドカッターとは、型枠を使わない舗装を転圧する際に端部を押えながら締固めるためにロール端部に取り付けられたアタッチメント。

※2：クラブステアとは、前ロールと後ロールが左右方向にずれる機構。サイドカッターと併用することが多い。

ちなみに、有名なドイツ料理のひとつに「ハクセ」という豚のすね肉料理があります。日本人がレストランに入ると、必ずといっていいほど「ハクセ」を勧められます。とてもおいしく、食べ応えもボリュームも満点です。



第105号

発行所 酒井重工業株式会社
住所 東京都港区芝大門 1-4-8
電話 03-3434-3401
FAX 03-3434-3419
発行人 水内 健一



晴天に恵まれた会場



サイドカッターとクラブステア



一番奥の料理が「ハクセ」です

新商品紹介 ～赤外線式放射温度計“SRT-300”～

今回は、赤外線式放射温度計“SRT-300”の担当者に企画・開発にまつわるお話を伺いました。

【開発のきっかけ】

10年ほど前から路面温度計を輸入販売していましたが、お客様のご要望にお応えし、さらなる高性能化を目指して国産化を実現することになりました。それが今回ご紹介する路面温度計“SRT-300”です。

【温度管理の必要性】

アスファルト舗装では、アスファルト合材の温度と転圧は施工品質を考える上で重要な条件です。初期転圧時のアスファルト合材温度は基準より高くても低くても転圧の仕上がりに影響します。

実際の現場では、転圧開始時の温度を棒温度計などで計測していますが、連続的に温度計測をしていないのが実情です。転圧しているアスファルト合材の温度の変化を見ながら施工をすれば、品質の良い道路が出来上がる事は間違いありません。

温度管理として相対的な温度の変化を知ることで、従来の点管理から面管理にステップアップし、舗装品質管理の一役を担えればと考えています。

【開発時の確認項目】

センサーメーカーとタイアップして開発を始めましたが、屋外で使用することを考慮し建設機械への搭載時の必要性能を検討しました。

- ①耐環境性能（防水・防塵・耐振）
- ②耐サージ電圧

エンジン始動時・エンジン停止時に発生するサージ電圧に対する耐サージ試験

- ③モニタの小型化

すっきりと小型化を実現しました。

【今後の展開】

転圧管理の中で、舗装体の表面温度を計測しても実際に知りたいのは、内部の温度であることは間違いのない事です。

表面温度を計測して、内部温度を知る。体脂肪計の様な路面温度計を開発するのが夢となっています。



路面温度計 SRT-300



温度計測イメージ

グランドフェア 2016 開催

今年で創業350周年を迎えたユアサ商事(株)の大展示会「産業とくらしのグランドフェア2016」が7月から9月にかけて全国5か所で開催されます。関東グランドフェアは全国に先駆けて7月8日・9日の2日間、千葉県の幕張メッセにて盛大に開催されました。

来場者数は22,310名でした。開催2日目の9日はあいにくの悪天候でしたが、会場内は熱気に包まれ各ブースを行きかうお客様であふれ返っていました。

関東グランドフェアの出展メーカーは計444社、うち建設機械は90社。それ以外は建築設備・住宅設備関連だけでなく高級腕時計や宝飾品、ゴルフ用品と様々なメーカーが出展していました。まさに「産業とくらしの」グランドフェアです。

また、飲食ブースでは「全国有名お弁当大会」が開かれ、全国各地で大人気の有名弁当が販売されていました。昼食時は大行列、あれもこれも食べたいと考えているうちに次々と完売していきます。なんと山形・黒毛和牛弁当はお昼前に売り切れてしまったそうです。会場全体がお祭りのような賑わいを見せ、子供から大人まで楽しめる年に一度の大イベントでした。



遠隔操縦装置「PALCOM」



ひしめき合う各社ブース

酒井重工業も毎年ブースを出展しており、今年も多くのお客様にご来場いただきました。出品機種は10トン土工用振動ローラ“SV513D”をはじめ、昨秋モデルチェンジを果たしたコンバインドローラ“TW504”、そしてお馴染みの小型締固め機械PCシリーズ、RSシリーズ、HVシリーズです。今回、特にお客様の目を引いたのは振動ローラ用無線遠隔操縦装置“PALCOM”の実演動画でした。この“PALCOM”は、遠隔操作でエンジン始動・停止、車両の前後進・方向転換、振動の入り切り等の操作が自由に行え、遠くから作業を安全に行うことが可能になりました。作業環境の改善がますます求められる昨今、安全性と操作性を特徴とした“PALCOM”は、動画をご覧になったお客様から高い評価を頂くことができました。

今回の関東グランドフェアにおいて、酒井重工業は初めて屋外にもブースを設けました。超低騒音を実現した新型ハンドガイドローラ“HV620”とパワーステアリングを標準装備した“HS67ST”の実演と説明は、人だかりができるほどご好評でした。

今後のグランドフェアのスケジュールは、東北7月22日・23日、中部9月2日・3日、九州9月9日・10日、関西9月16日・17日です。

世界の道路事情 ～中南米編～

中南米は、メキシコ以南の北米大陸・カリブ海諸島・南アメリカ大陸を指し、大小33の国々から成り立っています。5億を超える人々が住んでいるこの地は、19世紀まで主にスペインの植民地であったことから、多くの国々でスペイン語が公用語として使われています。日本から最も遠い地であるため、訪れる機会は少ないかもしれませんが、人々は陽気で明るく、また、世界遺産のマチュピチュやイグアスの滝などの名所もあり、とても魅力的な地です。



アルゼンチン

南米アルゼンチンの首都ブエノスアイレスには、独立記念日にちなみ「7月9日大通り (Avenida 9 de Julio)」と呼ばれる、16車線・道幅143メートルもの規模を持つ道路があり、世界一の道幅を誇っています。大都市であるメキシコやブラジルなどの首都も、ビルや幹線道路が整備され日本と殆ど変わらない姿を見せていますが、舗装率はまだまだ低く、未だ20～30%と低い数値を示しています。他国でも、特に地方道は整備不十分な場所が多く存在し、雨が降ると未舗装道路では通行が困難となり、周辺住人の生活に支障を来しています。



赤土の未舗装道路

中南米へ最初に当社の機械が販売されたのは、1993年でした。販売機種は10トンクラスの土工用振動ローラーが中心で、他にアスファルト用振動ローラーや小型機種も販売しています。また、路盤再生機のロードスタビライザ“PM550”は、ニカラグアへ日本政府の無償援助として3台納入しており、現在も舗装整備に大きく貢献しています。

今後も当社製品を通じ、中南米の道路事情改善に貢献して参ります。



ニカラグア



路肩は川のようにになってしまう



ニカラグアで活躍中のロードスタビライザ